



横手市議会だより

# あなたと市議会

3月 定例会

NO. 58 6月

平成31年4月15日号

12月

9月

## CONTENTS

- 3月定例議会ピックアップ ..... 2~3
- 会派代表質問・一般質問 ..... 4~10
- 新年度予算審査報告 ..... 11~13
- 先進地から学ぶ、市民と議員の懇談会  
議場へようこそ ..... 14~15
- シリーズY8・議会の主な動き ..... 16

### 賛否が分かれた議案と審議結果

●この他の議案は全員賛成により可決されました。  
○：賛成 ●：反対  
△：賛成 欠：欠席  
※齋藤光司議長は採決に加わりません。

案件名	副市長の選任について	
	賛成	反対
新風の会	青山 豊 ○	0
	加藤 勝義 ○	0
	奥山 豊和 △	0
	佐藤 誠洋 △	0
	高橋 聖悟 ○	0
	木村 清貴 △	0
市民の会	山形 健二 ○	0
	大日向香輝 ○	0
	菅原竜代嗣 ○	0
	菅原 正志 ○	0
	齋藤 光司 -	0
	菅原 恵悦 ○	0
さきがけ	寿松木 孝 ○	0
	播磨 博一 ○	0
	堀田 勉 ○	0
	佐々木喜一 ○	0
新政会	遠藤 忠裕 ○	0
	小野 正伸 ○	0
	佐藤 清春 ○	0
	佐藤 忠久 ○	0
日本共産党	鈴木 勝雄 △	0
	立身万千子 ○	0
公明党	土田百合子 ○	0
みらい	高橋 和樹 ○	0
新緑会	本間 利博 ○	0

### ● 陳情の審査結果 ●

陳情 1件が審査され、**継続審査**にすることとしました。(敬称略)

○横手公園スキー場存続について(横手市スキー協会 会長 佐々木 壽一 外2名)

●市民説明会では「図書館を核にする」と言い切るべきではない。体育館や文化ホール等、今度の施設展望や市の財政状況を含めた説明をした上で、前提を設けずに市民の意見を聴くべきではないか？

●市は、計画区域に71㎡しか土地を所有していない。再開発による保留床3500㎡を購入できるか

※「予算審査」の詳細については、11ページ以降をご覧ください。

### 予算審査のポイントはこちら！

●議会として再開発そのものに異論を唱えるものではないが、図書館機能で目的とするにぎわいが創出されるのか疑問。今後の検討で、公益施設の中身が変わる余地はあるのか？

●図書館機能で目的とするにぎわいが創出されるのか疑問。今後の検討で、公益施設の中身が変わる余地はあるのか？

### 議会の意思は？

市当局より、「図書館」も「ある公益施設として整備を進める。複合機能に

## 議案pick up

#### ■ 副市長の選任

任期満了となる石山清和氏の再任に同意しました。

#### ■ 森林環境基金条例を制定

森林の適切な経営や管理の確保を図るための法律が成立したことを受け、市が仲介役となり森林所有者と意欲と能力のある林業経営者をつなぐ新たな森林管理制度が構築されました。平成31年度より国から市に交付される森林環境譲与税について、単年度で執行できない額を積み立てていきます。

#### ■ 農業経営安定化対策資金融資あっせんに関する条例改正

「マル農」融資あっせんについて、貸付限度額が個人については200万円から1000万円に、法人については600万円から1500万円に引き上げられます。

#### ■ 都市公園条例の一部改正

大森プールを廃止し、テニスコートが拡張されます。

### 横手市議会議員政治倫理審査会の結果報告

山形健二議員は、平成30年12月4日の一般質問において、市の契約行為に関与しようとしたと受け取られる発言をしたことにより、12月11日付けで政治倫理審査会が設置されました。

審査会による審査の結果、山形議員の新電力との電力供給契約を誘導する発言は、横手市議会政治倫理条例第3条第6号に抵触する内容であり、議長から発言に注意するよう求められたにも関わらず発言内容を修正せず継続したことは、同条例第3条第1号に抵触すると認定されました。

審査会による、役職辞任報告が相当との判断と今回の言動は議会改革に水を差す行為であるとの附帯意見により、山形議員は、自ら広報広聴委員会広報副分科会長の職と議会改革推進会議委員を辞任しました。



政治倫理審査報告書をご覧ください



### まちなか再生推進事業

### 横手駅東口市街地再開発における市の関わり方に附帯決議

#### 事業背景と提案理由

空洞化の進む横手駅東口市街地再開発に向け、地権者で組織するまちづくり研究会は、再開発準備組合に組織改編し、事業実施を目指す予定に なっています。

事業計画の策定にあたっては、土地や建物の現況測量等により地権者の土地と建物の資産価値を把握するほか、建築する建物の基本設計や資産計画案の作成など、今後事業内容を具体化していくこととしていきます。

市としては、平成31年度から国・

### 平成31年度横手市一般会計予算に対する附帯決議文

#### POINT!

#### 附帯決議とは？

委員会や本会議で議案を議決する際に、その案件につけられる意見又は要望の決議のこと。法律上の効果は伴わない。

#### 議案第30号 平成31年度横手市一般会計予算に対する附帯決議

平成31年度横手市一般会計予算に計上されている「まちなか再生推進事業」1億5,844万円は、横手駅東口第二地区の市街地再開発の事業主体に対して、事業計画作成のための調査設計等にかかる費用として補助を行うために計上されているが、事業の中には横手市が設置を検討している公益施設に関する基本設計委託等についても含まれている。

市の説明では、公益施設は3,500平方メートルの保留床を買い上げ、図書館もある複合施設を整備することを想定しており、今後合併特例債を財源に約20億円の支出を見込むとしているが、第二次総合計画にも記載されていない施設であり、その決定に至る経過が市民に十分に説明されないまま予算案が行われたことは誠に遺憾である。

また、複合施設でありながら、図書館以外の機能については明らかにされておらず、民間が開発する施設やY<sup>2</sup>ぶらざをはじめとする第一地区の諸施設との連携を含め、これまでの公益施設整備における市の説明では、横手駅東口に賑わいが創出される姿をイメージすることが困難な状況であった。

市議会としても横手駅東口の現状については憂慮しており、再開発により再び横手駅前に活気が生まれることを切に願うものである。しかしながら、本来、地権者が主体性をもって実施していくべき再開発事業に、横手市がスケジュールありきで事業を主導し、過剰な介入になっている印象も拭えない。

以上のことから、事業実施にあたっては以下の点に留意して、将来に禍根を残す公益施設とならないよう慎重な対応を求めるものである。

1. 公益施設整備についてはスケジュールありきではなく、既存図書館の在り方、財政見直しなど十分な情報を提供した上で、市民、議会との丁寧な合意形成を図り、市民が真に求める公益施設機能決定すること。
2. 現在、再開発の検討を行っている「まちづくり研究会」とは、十分な情報共有を行い、市の意向だけが先行することのない、官民一体となった再開発事業を実施すること。また、協議の状況は議会にも報告すること。

以上、決議する。 平成31年3月20日 横手市議会



会議資料と審議結果はこちらからご覧ください

3月定例議会は2月25日から3月20日までの日程で開催されました。市民生活に密着するさまざまな議案審査の中から、特に注目する内容について取り上げます。

# 可決 2年ぶりの全会一致 総額560億2000万円の一般会計当初予算案

# ココが聞きたい!

## 3人の会派代表と10人の議員が市政を問う

### 会派代表質問 P4~P5

市長が示した新年度施政方針、教育行政方針に対し、会派の代表者が質問を行います。

### 一般質問 P6~P10

市の事業や施策に対し、議員が市に考えや意見を求めるものです。



QRコードを読み取ると録画中継をご覧いただけます。

横手市議会マスコットキャラクター しらとり議員



新政会 佐藤忠久議員



さきがけ 塩田 勉議員



市民の会 菅原恵悦議員

●生活インフラ整備加速化事業について

**問** 生活インフラ整備加速化事業が最終年度を迎える。未整備箇所も多数あり、継続して市道の修復を図ることが必要と思っておりますか。

**答** 今後は、橋梁長寿命化などの大規模なインフラ整備も同時に進めていく必要があることから、補助事業等の対象となる整備手法を模索し、財源確保を図りながら、単独事業においても目的・要件に応じた適切な実施を検討していく。

●条例等の見直しについて

**問** 施設の設置条例の内容に地域差が見られるほか、現状にそぐわない例規などが存在する。内容の再点検が必要と考えるがどうか。

**答** 条例などの例規は、合併後に新たに制定されたものを除き、原則、合併当時の事務事業の調整に基づいた内容になっている。現在、市では公の施設の設置条例

### 生活インフラ整備の継続を



さきがけ 塩田 勉 議員



市道の穴ぼこ補修の様子

●指定管理者制度について

**問** 今後、指定管理者制度をどのように進めるのか伺う。

**答** より効率的な行政経営を目指すため、アウトソーシングのさらなる推進は不可欠であり、指定管理者制度についてもその手法の一つとして、施設の特性や利用実態など十分考慮しつつ、積極的な活用を進めていく。

●市内公共交通について

**問** 市民から買い物や通院のための交通手段がないという声が聞かれる。市内公共交通の現状は。

**答** 「鉄道」2路線のほか、「路線バス」15路線、JR横手駅を中心とした市街地の一部を巡回する「循環バス」1路線、「デマンド交通」、「代替交通」3路線、市が直接運行している「コミュニティバス」3路線、「有償旅客運送」1路線の6つのシステムからなり、多くの皆様にご利用いただいている。今後、市が取り組む対策の方向性を定める「地域公共交通網形成計画」策定のため、地域交通活性化協議会の協議を経て、現在のパブリックコメントを実施している。

**問** 地域ごとにあるコミュニティバスの実態と今後の展望、新たな送迎システムの構築について伺う。

**答** 平鹿・大森・山内の3地域で市が運行しているコミュニティバ

### 買い物や通院のための足の確保は最重要課題



新政会 佐藤忠久議員



市街地の一部を巡回する循環バス

●市営スキー場について

**問** 12月定例会で横手公園スキー場廃止条例案が否決されたが、大雨災害により使用できない。天井下森スキー場1カ所しかなく、他にも必要ではないか。

**答** 市が設置するとなると安全管理運営の責務があり、コース整備のための圧雪車配備や、管理人配置の必要が生じるため難しい。

●観光誘客促進について

**問** 今冬の「横手の雪まつり」は金曜日、土曜日の開催となり多くの観光客で賑わった。市として、どう分析し、今後につなげていくのか伺う。

**答** 観光客数54万7千人と前年比15万7千人増えた。要因としては開催の曜日や天候、首都圏や関西圏での「出前かまくら」、チャーター便の運航、ホームページ、フェイスブック等を活用した情報発信による効果と分析している。

**問** 今年5月ブランドオーブンする増田まんが美術館と「増田のまちなみ」への誘客には、十字駅周辺の階段の問題や駅周辺の環境整備が必須と思う。市の考えは。

**答** 十字駅周辺は、地域公共交通ネットワーク上の主要な交通結節点であることから、駅の整備や駅構内の階段対策などについてJRとの協議を開始するほか、駅周辺の環境整備に関して

### 観光誘客の促進と受け入れ態勢の整備を

市民の会 菅原恵悦議員



外国人観光客が増えている小正月行事「かまくら」

●健康の駅推進事業について

**問** 健康の駅推進事業は身体状況の分析システムの構築が必要と思うが、市の考えは。

**答** 中・小規模駅の利用者の身体状況の分析を進めるためのシステム改修を予定している。また、利用者が身体の筋肉量や体脂肪の量及び率、栄養素などを、その場で数値化できる「体組成計」を新年度に導入する予定である。

■その他の質問

- 本庁舎の駐車場確保について
- 地域公共交通について



高橋和樹議員



Q 事業計画のプロセスに問題はなかったのか

A 市民説明が十分でなかったことを反省する

●横手駅東口市街地再開発事業について

問 市長の公約である「横手駅東口開発促進」がスタートとなるこの事業計画において、現在までのプロセスに問題はなかったのか。

答 事業主体が民間で組織する組合であり、権利調整が盛んに行われている中で、これまで市民の皆様様に再開発事業全般に関する説明をできる状況になかった。市が整備を予定している公益施設整備についての市民説明が十分でなかったという点において、プロセスとして反省すべき点はあったと考える。3月下旬には市民の皆様へ説明する場を設け、複合施設に必要な機能について意見を伺い、計画に反映したいと考えている。

問 全国各地で「中心市街地再開発事業」が行われているが、その中の失敗例や、当市の駅東第一地

区の再開発から学び、それを生かした今回の計画なのか。

答 一般的な失敗の事例として、再開発事業の合意形成の段階でとん挫するケースや、商業施設の撤退やテナントへの入居がないことによる空き店舗化、マンションの売れ残りなどがある。第一地区の実施時においても、組合設立後に参加予定のスーパー事業の撤退があり、参画する事業者の誘致に苦慮した事例もある。他市の事例を大いに参考にし、権利者の皆様とともに事業推進を図っていく。



再開発が待たれる横手駅東口エリア



館尻遺跡(平鹿町吉田地区)現地公開の様子

極めて有効な手段と考える。後三年合戦関連遺跡の整備活用計画の中で視覚的にわかりやすい公開の方法を検討していく。

●埋蔵文化財発掘調査事業の現状について

問 後三年合戦関連遺跡の発掘調査の開始時期が遅く感じるが、現状はどうか。

答 県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査を並行し行っている。今後は県と協議し、後三年合戦関連遺跡の学術調査に時間をかけて取り組めるよう調整していく。

A 遺跡整備活用計画の中で可視化を検討していく

Q 埋蔵文化財をVR、AR等で公開できないか



本間利博議員



Q 子育て世代包括支援センター設置の考えは

A 平成31年度を準備期間として平成32年度に開始する

●(仮称)よこてネウボラについて

問 フィンランド語で「助言の場所」を意味するネウボラは、妊娠期から就学前にかけての子育て世代を対象とする支援制度である。ワンストップの地域拠点で切れ目のない子育て支援を行うネウボラについての考えを伺う。



切れ目のない子育て支援を目指し取り組む子育て支援コーディネーター(右)

現在、母子保健分野と子育て支援分野の事業を基盤とし、保健師などの専門性を生かして切れ目のない支援を行っている。センター開設に向けては、関係機関との連携を一層強化し、子育て中の皆様の声も反映しながら準備する。

●幼児教育・保育の無償化について

問 今年、10月からスタートする幼児教育・保育の無償化について。

答 柱となる3歳から5歳までの入所児童1447人、1329世帯の保育料を無料とし、必要なシステム改修費を当初予算に計上し

●水害対策について

問 地区会議から要望がある横手大戸川・横手川合流点周辺の水害対策についての考えを伺う。

答 平成31年度、合流地点に堆積している土砂を取り除き水が流れる面積を広くする「河道掘削」の予定があると聞いている。県からの要請があれば協議し、協力する。

●施設展望のその後について

問 施設事業実施の優先順位は何をもって決めたか。また推定事業費の根拠は。

答 官民連携など対外的な要因を考慮し、施設の老朽度、配置状況利用状況など市民サービスの影響度について総合的に判断し設定した。推定事業費は複数の建設場所の案を提示したことなどから、他自治体の建設事例を参考に、あくまでも想定値として示した。

問 多目的総合施設の整備にあたり一番先に進めなければならないことは、市民が納得した上での建設の賛否を問うことと思うが。

答 多くの市民の皆様からご意見を頂戴し、理解を得ることは大変重要である。市民ワークショップなど、市民の皆様から広くご意見を頂戴できるような仕組みを検討し、早期に取り組んでいく。

A 広く意見を頂戴し早期に取り組む

Q 体育館建設の取組みは市民の納得が重要



大日向香輝議員



新潟県長岡市「アオーレ長岡」のアリーナ

問 従前の構想と今回の計画では事業費の開きが非常に大きいですが、前計画との違いは。

答 複数の立地場所や規模を想定した観客数の見直しなどをもとに再検討した。今後市民の皆様のご意見を伺いながら検討する。

問 遊休施設や使用頻度の少ない体育施設をサッカーやフットサル、スリー・バイ・スリー等に転用するなどして活用出来ないか。

答 時代や流行を見据えて考慮しなければならぬ。今後、個別計画を立てる上で考えていきたい。

\*VR...バーチャルリアリティ(仮想現実) コンピュータ上に人工的な環境を作り出し、あたかもそこにいるかのような感覚を体験できる技術。  
\*AR...オーグメンテッド・リアリティ(拡張現実) 実際の景色、地形、感覚などに、コンピュータを使ってさらに情報を加える技術を指す。



加藤勝義議員



Q 施設展望の可否決定までのプロセスは

A 市民の皆様から広くご意見をいただき進める施設展望について

問 昨年、施設展望の計画が出されたが、その中の多目的総合施設(体育館)、芸術文化ホール、市民プール、西部斎場について平成31年度中に実施可否を決定するとしている。決定までのプロセスは。

答 ワークショップや説明会など、市民の皆様から広くご意見を頂戴し、議員の皆様と協議を深めていく。多目的総合施設(体育館)や芸術文化ホールは、2020年度予算編成に着手する時期を目途に判断する。

問 市民に説明する際は、財源や将来の横手市の財政状況も併せて説明するべきではないか。

答 今までは、財源等は説明してこなかった。今後は、将来の財源部分も市民に説明する。

問 増田まんが美術館について



築50年が経過する横手市民会館

問 観光客とのコミュニケーションは大切だ。地域にある各種団体との協議会をつくり、マンガとまちなみとの連携につながる気風を作っていきたい。

ちなみとの具体的連携策を伺う。

答 市では、増田のまちなみを担当する歴史まちづくり課と、まんが美術館事業室を統合して文化振興課を新設し、マンガ文化と伝統文化のそれぞれの魅力を伝える。

問 連携するにはハード整備のみならず、おもてなしなど市民の力も必要ではないか。

答 観光客とのコミュニケーションは大切だ。地域にある各種団体との協議会をつくり、マンガとまちなみとの連携につながる気風を作っていきたい。



菅原正志議員



Q スポーツ振興の理念を語れる場が必要でないか

A 今後の計画策定やスポーツ環境づくりの中で生かす

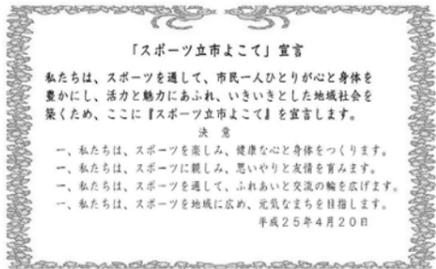
問 キャンリア教育における小中高校の連携について

答 大規模な修繕の場合は、危険度や劣化状況などを踏まえ優先順位付けを行い、計画的に整備できるように検討していく。

■その他の質問

問 キャンリア教育における小中高校の連携について

答 わかりやすい議会への説明について



平成25年4月に宣言した「スポーツ立市よこて」

問 まちづくり推進部のこれらについて

問 市のスポーツ推進計画は理念や夢がわからない。スポーツ全般について夢を語れる場が必要でないか。

答 今後、子どもたちが伸び伸びとスポーツに取り組める環境づくりなども含め意見を聞く場を作っていくよう検討する。

問 地区交流センターの進捗は。

答 地域住民の主体性や参画意識の醸成を図ることを優先し、実現に向け各地で進んでいる。

問 地区交流センターの建物や設備の修繕や整備の対応は。

答 大規模な修繕の場合は、危険度や劣化状況などを踏まえ優先順位付けを行い、計画的に整備できるように検討していく。

問 新卒者ができるだけでなく、地元で働くための取り組みは何か。

答 普段の授業をキャリア教育の視点を持って実践することが大切であると捉えている。

小・中学校の職場見学等は望ましい職業観や勤労観を育むために大切な機会であり、部局横断で取り組む。

■その他の質問

問 わかりやすい議会への説明について

Q 日本一のホップの郷づくりを目指すべき

A 大雄ホップ農協やキリン社と連携し対応する

●ホップの振興策について

問 持続可能なホップの郷づくりを目指すのが方針だが、ホップの栽培はかなりの特殊性を持っている。この支援を図る上での第一歩として、戦略作物の指定があるべきと思うがどうか。

答 昨年より作業機械や共同利用施設などの修繕費用助成を支援してきた。また、県の農業夢プラン推進事業においても、市では今年度より戦略作物として位置づけ、支援を進めている。

●新たなイベントの対応について

問 昨今はイベントが多様化してきており、新たな観光の可能性を感じる。今年9月に開催される自転車を活用した新たなイベントの内容と市の対応は。

答 キリン株式会社と連携協定を締結しているが、キリン社の直営ほ場設置など新たな展開を進めるべきと考えるが。

問 キリン株式会社と連携協定を締結しているが、キリン社の直営ほ場設置など新たな展開を進めるべきと考えるが。

答 横手市観光推進機構では、9月21日・22日に「かまくら・ライド」を計画しているようだ。このイベントには多くのスタッフを要し、周到な準備が重要と認識している。市も関係団体と一緒に準備を進め、オール横手で観光誘客とリピーター確保につなげたい。



ホップの収穫作業(大雄地域)

寿松木 孝議員



●海外戦略について

問 ホストタウンや海外への販路拡大、インバウンドなど、事業が変わればターゲットも変わり一貫性がない。戦略に沿った活動がなされていないことよって、目的や成果がうやむやになっているのではないか。横手市は、何のためにシテイセールス事業を行うのか。

答 観光では台湾・タイ・中国を。物産では香港・マカオ。スポーツを中心としたホストタウンではインドネシアを対象に海外向け事業を展開している。2020東京オリンピック・パラリンピックに合わせ増加する海外のお客様に、いかに横手を知ってもらうか、関係部署が横断的な連携を図り推進する。

問 どんな魅力を誰に押し、どのように売り込んでいくのがシテイセールスの本質だと思ふ。一人ひとりの心に響く情報発信が必要



横手公園で行われた日本インドネシア国交樹立60周年イベント

A 互いにメリットがあるウインウインの関係を目指す

Q 何のために農業分野に外国人材を受け入れるのか

で、ターゲットが明確になれば行動が具体的にになり、その積み重ねがまちづくりになるのではないか。

答 シテイセールス事業をまちづくりそのものとは考えていない。

問 農業現場への外国人材の受け入れは簡単ではない。インドネシアから研修生を迎え長期的に経済交流に結びつけたいようだが、具体的にどのよう受け入れるのか。

答 31年度は、他県の状況を把握しインドネシア側と研修内容について協議しながら、受け入れの仕組みづくりに取り組んでいく。

奥山豊和議員



# 健康・福祉・環境

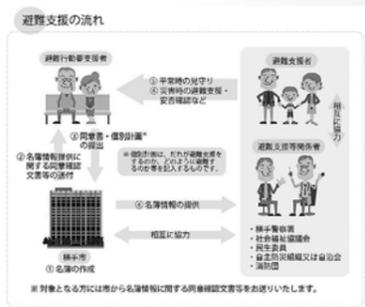
横手市議会ホームページ厚生常任委員会のページがご覧いただけます



## 避難行動要支援者名簿の活用は

名簿の活用方法と、常に更新していく必要があるが、どのように考えて進めるのか。

**答弁** 名簿管理システムにより、住民基本台帳とも連動し、定期的に異動を反映できるようにになった。町内会等に名簿を配布し、普段から要支援者が近所にいることを分かてもらい、すぐ避難の手助けができることが理想だ。支援を受ける人と、それを支える地域の人たちの意識を高めていくことが事業の課題だ。



## 赤ちゃん訪問事業のポイントは

赤ちゃん訪問の際、「もっと寄り添ってくれるものと期待し、心配事の相談をしたかったが、通りいっぺんの対応だった」という母親の意見を伺っているが、この事業のポイントは何か。

**答弁** 新生児の時に一番悩みが多いので、出生届が提出されたら地区担当の保健師が訪問し、いろいろな相談を関係部署につなげている。このような市民の声を大事にしながら、一人ひとりの保健師が自覚し、対応していきたい。



## 児童虐待への対応は

横手市内でも子どもの虐待が増えているとの報告がある。個別ケース検討会議の開催も増加しているのか。

**答弁** 児童虐待の通報に関しては、県の児童相談所をお願いしているが、全国的傾向と同様に年々増えている。問題を抱える子どもに対してどのようにしていくかという個別ケース検討会議の開催も間違いなく増えており、その内容についても複雑化してきている。



## クリーンプラザよこての運営実績は

ごみ収集量と全体量の推移はどうか。

**答弁** 燃やすごみの量は計画より少ない状況だ。資源ごみや粗大ごみを含めた総量はこれまでより増加する見込みである。人口減少に伴い集積所からのごみは減少しているが、直接持ち込まれる量と事業系ごみが増加傾向にある。これはクリーンプラザよこての認知度が進んだものと考えている。



## Q 誰もが支え合える地域をつくるためには

A 各課の連携と地域課題解決のための体制づくりにある

●各分野の福祉施策について

**問** 誰もが個々のニーズに応じた支援が受けられる地域にするためにどう取り組むか。

**答** 各課の相談員や保健師を中心に連携を強化する。また、地域の課題解決のためには、地域の協力体制を強化する必要があり、そのためには、社会福祉協議会が「力ナメ」となると考える。

**問** 3年前から国の生活支援体制整備事業として展開している「協議体」の課題は何か。

**答** 地域課題把握のためのアンケート調査などの結果、「移動手段」や「ボランティア等の担い手不足」などの課題が明確になった。元気でいきいき暮らせる地域づくりに取り組む上で人材育成の視点は重要と捉えている。

●国民健康保険事業について  
**問** 都道府県化2年目となる来年



立身 万千子 議員



度の保険料率及び保険者努力支援制度を市としてどう活用するのか。

**答** 当面保険料率は据え置く。保険事業をさらに充実させ、効率的に活用し国保財政を安定させる。

**問** 少子化克服の一方策として、子どもの均等割免除の施策を再度提案するかどうか。

**答** 県が財政運営の主体であるため、知事会を通し国に要望している。18歳以下の国保加入者770人、474世帯（1月末）のうちの6割が軽減制度対象である。今後も国庫の動向を注視していく。



2月24日に開催された横手市地域支えあいネットワーク市民集会

## Q 生産工程管理(GAP)への市の対応は

A GAP推進により農産物の生産振興に取り組む

●農業施策について

**問** 生産工程管理(GAP)による安心、安全を確保し、生産物等を有利に販売することが大事だと思う。市の対応等について伺う。

**答** 戦略品目の競争力強化対策としてGAPの推進に取り組み、県やJAと連携しながら、安心、安全な横手産農産物の生産振興に取り組む。

**問** 複合産地日本一を目指すには園芸作物の支援対策が急務と思われる。園芸作物等へ市単独の支援について伺う。

**答** 「水田利活用緊急支援対策事業」を継続する。機械や施設等の導入については、新たに経営規模の維持についても対象と出来るように要件の見直しを進めている。

**問** 土壌分析センターの活用について伺う。

**答** 診断結果に基づき施肥設計・



農業者の負担軽減につながる支援体制を

施肥管理をサポートするため、JAと連携し支援していく。

**問** 地域種苗センターの研修及び施設整備、供給について伺う。

**答** JAが主体となり、市内の種苗生産にかかわる農業者の皆様とネットワークを構築し強化していく。今後JAと連携しながら、種苗の安定供給に努める。

**問** 健康増進法の取り組みについて受動喫煙防止対策の施設整備等について伺う。

**答** 公共施設を利用する喫煙者の意見も参考に方針を決定していく。



鈴木 勝雄 議員



# 総務・財政・教育・生涯学習・消防

横手市議会ホームページ総務文教常任委員会のページがご覧いただけます



## ICT支援員の配置は

小学校へのICT機器の導入は、教師の負担が増えると思う。有効に活用するために支援員を配置するなど対策は考えているのか。

**答弁** 機器の購入だけでなく、システムメンテナンスや学習環境構築を含めて業務を委託する。また、指導方法、操作、授業のサポートなど機器を有効に活用していくための支援の形についても、状況を見ながら検討していく。



## 地域づくり活動支援事業

住民が自発的に行う地域活性化活動を支援する「地域づくり市民活動補助事業」について、補助申請するには様式が難しいとの声があるが対策を考えているのか。

**答弁** 申請については補助金ガイドブックに細かく記載している。また各地域局で相談しながら申請書類の書き方や提出の助言をしているので補助対象になるかなども含め気軽に相談して欲しい。



## スクールバスの地域交通への利用検討を

スクールバスの利用について、これまで通学以外の利用が制限されていたが、一般にも利用出来るかもしれないとの説明に変わりつつある。有効活用できるよう検討して欲しい。

**答弁** スクールバスの利用については公共交通政策全般をどうするかという問題と捉えている。民間バス事業者が運行していない空白域での実施になると思うが、現実感をもって対応したい。



## 災害備蓄品の保管場所について

備蓄品の保管場所を金沢孔城館としている。災害はいつどこで発生するか分からない。各地域に分散して配置するべきと考えるがどうか。

**答弁** 集中管理と分散管理のどちらにもメリット、デメリットがあるが、計画的に分散配置し、地元自治会等にも周知していく。



# 農商工業・観光・土木・建築・上下水道

横手市議会ホームページ産業建設常任委員会のページがご覧いただけます



## 国際的産学官連携モデル事業

国際的産学官連携モデル事業の受け入れに際して、民間側はどのように考えているのか。

**答弁** 台湾の大同大学の学生をインターンシップ生として市内の10企業が受け入れる。これまでもこの事業が縁で若手経営者との交流が深められている。大同大学は工業系の分野に強く、学生が将来、研究者・経営者となった時、経済交流に発展する可能性が非常に高いものと捉えている。



## 外国人研修生の受入体制は

県もインドネシア共和国との交流が少ない中で、直接大使館と市が交渉して行われる事業に不安を感じる。どのような体制で農業分野にインドネシア研修生を受け入れようとしているのか。

**答弁** どのように受け入れるかについて、まずは、インドネシアの現地調査や、群馬県などの国内で実績がある先進地を調査し、体制については1年かけて検討していく。また、専門性の高い部分は委託しながら進める。



## 企業の人材不足について

有効求人倍率が高まり、企業間の人材の取り合いということが起きている。商工業振興計画の中ではどのように考えているか。

**答弁** 現在の有効求人倍率は1.6倍ほどで、事務職の0.7倍に対し、建設業や専門技術職では5倍、8倍というところもある。この業種間の差をなくすためマッチング支援が最も重要になる。また、企業ガイダンスやインターンシップ事業を推進し若年者が地元に戻り、残ってもらえるようPRしていきたい。



## 雪国の安全安心な住宅普及を

雪国よこて安全安心住宅普及促進事業の現状と展望について。

**答弁** 30年度は167件の実績である。枠の関係で31年度から2年間は国の交付金が見込めない状況である。需要もあるので31年度からは補助率を15%から10%、上限30万円を20万円に引き下げながら、市の単独事業として継続することとした。また、県のリフォーム補助金との併用も可能である。



タブレット端末活用推進会議

広聴分科会

厚生常任委員会

タブレット端末の有効活用を探る

2月5日 ICTセミナー

仙台市で行われた「ICT化と開かれた議会の展望について」に参加。奥山豊和副委員長が当市議会の取り組みについて報告した。

ポイント

■積極的にタブレットを活用
熊本市では職員が紙の資料を持参しないことや熊本地震の体験から災害対策として活用を進めている。

2月6日 栃木県栃木市

栃木市(人口160,000人)は当市議会より早くタブレットを導入しており、その実績を視察。

ポイント

■紙の削減
■市民に対する説明が向上

視察を終えて

▶横手市議会では、タブレット端末導入以降、紙の削減率90%、経費削減効果250万円以上と結果が現れている。今後、災害対応や議員の資質向上に活用することにより市民の皆様に還元できると考える。(本間 利博)



議会を知り、未来を語る(中学生議会)

2月1日 茨城県取手市

中学生に模擬議会の取り組みのほか、地域を知りまちづくりを意識してもらうことを目的に始められた。意見交換会「市民と語ろう 現在と未来」ではゲーム方式など参加型の手法で行っている。

ポイント

■議員による中学生への講話
議員が学校を訪問し、議会についての講話を行う。
■中学生による模擬議会の開催
中学生代表20名と市議会議員による議会を開催。
■中学生から見た地域課題を提案
事前に議員が生徒の中に入りアードバイスしている。

視察を終えて

▶進歩した形の主権者教育が2時間授業として行われていた。
▶横手市議会でもY8サミット創快横手市議会の在り方をもう少し研究してもいいのではないかと。(佐々木喜一)



議員と話そう! カフェトークふじさわ

1月31日 神奈川県藤沢市議会

ワールドカフェ方式で開催している「カフェトークふじさわ」は議会報告会の出席者が減少していることへの対策として始まり3年になる。

開催は休日の午前と午後、同じ会場で2回の実施であった。

ポイント

■ワールドカフェ方式
お互いの発言を否定、非難しないルール。途中何度か席替えをし、話す相手を変えながら意見を絞り込み、課題をはっきりさせようとする手法。
■大学准教授がアドバイザー

視察を終えて

▶ワールドカフェ方式は今後多くの議会報告会に取り入れられるものと考えられる。
▶会議の進行という重要な部分を担うファシリテーターをどのようにしていくかが成功の「かぎ」と言える。(佐々木喜一)



子どもの居場所づくり 新BOP事業

12月21日 東京都世田谷区

世田谷区では平成7年度より小学校施設を利用して「遊び場」を確保し、遊びを通じた異年齢交流を促進するBOP事業を行っていた。平成11年度から学童クラブ待機児童の増加への対応と、全ての小学生を対象にした総合的な放課後対策のため、BOP事業と学童クラブを統合した「新BOP事業」を開始した。

ポイント

■BOP事業は教育領域、学童クラブは福祉領域であり、児童の指導・育成の考え方に違いがあった。
■活動スペースは学校内の2教室を基本とし、校庭・体育館・特別教室を小学校と調整し使用。

視察を終えて

▶子どもにとって「遊びは学び」である。
▶異年齢交流は将来において地域力をつける原点となる。
▶課題は、地域の見守りと各方面の情報共有であり、教育委員会と子育て支援の密な連携が重要だ。(高橋 和樹)



子ども夢パーク/フリースペースえん

12月20日 神奈川県川崎市

平成12年12月に制定された「川崎市子どもの権利に関する条例」を実現する施設として平成15年7月にオープンした。「(財)川崎市生涯学習財団」と「NPO法人フリースペースたまりば」が指定管理者として共同運営している。

ポイント

■①子どもの活動拠点 ②遊びを極力制限しない冒険遊び場「プレーパーク」 ③学校の中に居場所を見いだせない子どもや若者が多様に育ち、学ぶ場である、「フリースペースえん」を3本柱として運営。
■親の過干渉により、子どもたちは自己肯定感が低い。
■川崎市は経済格差が大きく、貧困問題も多い。
■子どもが「自分で決めるプログラム」で自由に過ごす。

視察を終えて

▶真の子育て支援について今以上に考えていく必要がある。
▶マニュアルだけにとどまらない幅広い対応の大切さを感じた。
▶運営管理者の西野氏に横手市で講演してもらいたい。(高橋 和樹)



複合福祉施設 ウェルファーム杉並

12月19日 東京都杉並区

自然が豊富で閑静な住宅地域として発展してきた杉並区は独居老人世帯が多く、高齢者の約半分が後期高齢者となっているなどの課題を抱えている。ウェルファーム杉並には、在宅医療・生活支援センターなど、高齢者から子どもまで区民の福祉や暮らしを幅広くサポートする多くの機関や施設が集約している。

ポイント

■「縦割りの支援から横断の支援」を合言葉に、各分野を包括的にまとめ上げる。
■これまでは分野ごとに作成していた支援計画を、横断的な支援計画を作成し、世帯を丸ごとサポートする体制を構築。

視察を終えて

▶情報の共有と迅速で効果的な支援が期待できる。
▶ワンストップサービス化の便利さを改めて感じた。
▶複数の課題を抱える住民の課題解決には行政だけでは限界がある。地域の支えあい活動の環境づくりに横手市も取り組むべきだ。(高橋 和樹)



議場へようこそ 十文字第二小学校 6年生のみなさん

議員への質問コーナー

Q 話し合いで、もめたり、けんかになることはありませんか。私たちはよくあります。

A けんかになることはありません。ざっくばらんに話し合えるようにしています。



2月21日(木)、6年生12名が議場などを見学しました。

Q 議員のやりがいは何ですか。

A 自分の意見が市の取り組みに反映されたときです。

Q 市民からの要望をきく方法は何ですか。

A 議会報告会や、団体と会って話を聞いています。

会場で出された主な意見

いただいたご意見は議員全員で共有し、政策提案につなげていきます!



皆様のお話をうかがいます 市民と議員の懇談会ページ



●路線バスがないのは雄物川で館合地区だけ。もう少し考えてもらいたい。
●病院は大森、買い物は沼館、その間にある館合はどちらにも遠い。デマンド交通に代わる小さなバスを運行してもらえないか。
●民生委員の負担が大き過ぎる。地域づくり活動補助金の申請・報告が難儀だ。

つきの木会女性部(館合地区)と議員の懇談会

皆さんの声をまちづくりに!

12月25日(火)、つきの木会女性部の皆さんと懇談会を開催し、活発な意見交換が行われました。

# 議会の主な動き

## 1月

- 10日 産業建設常任委員会協議会、FM放送収録
- 16日 全員協議会(行政課題説明会)
- 23日 横手市森林・林業・林産業活性化推進議員連盟研修会

森林環境税の導入に伴う新たな森林管理制度と横手市の森林・林業・木材産業等の現状について学ぶ研修会を開催しました。



- 全員協議会(行政課題説明会)
- 25日 議会改革推進会議
- 29日 広報広聴委員会広聴分科会
- 31日 広報広聴委員会広聴分科会行政視察(～2月1日)

## 2月

- 4日 厚生常任委員会協議会 ICT推進セミナー(～5日、仙台)
- 5日 タブレット端末活用推進会議行政視察(～6日)
- 6日 全国高速自動車道市議会協議会定期総会(東京都)、FM放送収録
- 8日 秋田市議会議長会定例会、産業建設常任委員会協議会
- 12日 議会改革推進会議、全員協議会(行政課題説明会)
- 13日 総務文教常任委員会協議会
- 15日 厚木市・那珂市議会 友好都市交流



両市議会議員の皆さんが当市を表敬訪問し、意見交換や小正月行事の見学などをしました。  
写真左：那珂市議会のみなさん(木戸五郎兵衛村にて)  
右：厚木市議会のみなさん(厚木市・那珂市議会議長賞を受賞した安田原昭和会のみなさんと記念撮影)

- 19日 正副委員長会議、議会運営委員会、全員協議会(議案説明会)、広報広聴委員会広聴分科会
- 21日 十文字第二小学校議場見学
- 22日 FM放送収録
- 25日 3月定例議会(～20日)
- 28日 広報広聴委員会広聴分科会

## 3月

- 1日 FM放送収録
- 4日 産業建設常任委員会協議会
- 5日 全員協議会、FM放送収録
- 6日 議会運営委員会
- 7日 広報広聴委員会広聴分科会・広聴分科会
- 8日 議会改革推進会議
- 14日 広報広聴委員会広聴分科会、FM放送収録
- 18日 正副委員長会議、議会運営委員会、タブレット端末活用推進会議
- 20日 産業建設常任委員会協議会
- 26日 広報広聴委員会広聴分科会
- 28日 広報広聴委員会広聴分科会

### 表紙の写真

平鹿中学校吹奏楽部 練習の様子(撮影：加藤 勝義)

# シリーズ Y8 ワイエイト vol.4

## 校訓「自律共生」

### 平鹿中学校生徒会執行部

私たち平鹿中学校では、校訓「自律共生」のもと、充実した生活を送ることができるように今年度スタートしました。

昨年度は、出身小学校に行きあひさつ運動をしたり、昼の放送でメッセージを紹介するなど、地域とのつながりや温かい学校づくりを意識して取り組んできました。そして、Y8サミットの創快宣言を基に、平鹿中学校でもいじめのない学校を目指して取り組んできました。

今年度の生徒会テーマは、これから全校生徒で考えることとなります。校訓やこれまでの平鹿中の伝統を受け継ぎ、1年間の道しるべとなるようなテーマを考えたいと思っています。学校をより活発にできるよう、校内行事に力を入れ、今ある行事の中で新しい試みをどんどんしていきたいと思っています。新しい風を僕たち生徒会から吹かせていきたいと思っています。そして、挑戦する気持ちを忘れずに前へ進んでいきたいと思っています。



平鹿中学校生徒会執行部の皆さん

## 編集後記

平成最後の定例議会が幕を下ろしました。新しい時代において、何のために議会があるのかという問題意識を常に持ち続けながら、市民の皆さまに対する責任を果たして参ります。

今後とも議会の議論にご注目をいただき、いつでも意見交換を行う準備をしておりますので、お気軽にお声がけください。(奥山 豊和)

### ◆ 広報広聴委員会広聴分科会 ◆

分科会長 奥山 豊和 副分科会長 加藤 勝義  
委員 播磨 博一 委員 高橋 聖悟  
委員 土田百合子 委員 山形 健二



横手市議会公式 facebook



いいね! してね(^^)